

平成 30 年 6 月 7 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26360009

研究課題名(和文) 現代アフリカにおける土器をめぐる創造的実践知の生成とマテリアリティの变成

研究課題名(英文) Formation in innovative practices and mechanism of materiality on Pottery making in Africa

研究代表者

金子 守恵 (Kaneko, Morie)

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授

研究者番号：10402752

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：この研究は代表者が15年前にエチオピア西南部の農耕民アリが暮らす地域での調査開始時と比較して、市場経済化や観光化といった諸変化に着目し、人びとが自らの身体を介して土器と相互に作用しあう過程で生じる人とモノの多層的な関係の様態(=マテリアリティ)が变成する機序の解明をめざした。その結果、職人は15年前と同様の素材をもちい、道具をほとんど使わず自らの手指を使って個別に確立した特定の手順にそって日用品としての土器を製作して生業を営んでいること、職人が個々の職人の技法的な変異を積極的に評価し土器の注文を繰り返す使用者との関係性を契機にして技術的な革新を続けていること(=創造的実践)があきらかになった。

研究成果の概要(英文)：This study elucidated the mechanisms of materiality in modern pottery-making in Africa, which include multi-layered human-object relationships, comparing them with the technological features of the techniques used to produce pots as recently as 15 years ago. It was found that (1) potters in southwestern Ethiopia use the same raw materials as those used 15 years ago, such as clays and fuels, to produce pots; (2) potters make their living by selling their pots as daily utensils at periodic markets; and (3) technological differences among potters were respected, and potters continued to innovate pottery techniques, using customers' orders as an opportunity to create new varieties of pots. This study examined potters' techniques as innovative practices related to social relationships between potters and users. This has been driving people in southwestern Ethiopia to use and produce pots since 15 years.

研究分野：人類学、アフリカ地域研究

キーワード：アフリカ マテリアリティ 土器 創造 実践知 ものづくり 变成 エチオピア

1. 研究開始当初の背景

これまでの研究では、調査地域であるエチオピア西南部の土器が地域内の資源を利用して製作され、地域内を流通し日用品として人びとのあいだで多用されている社会的な状況を、土器の利用実態、製作における女性職人の身体技法の継承、および技法の変化と職人のライフストーリーの関連性等について検討した。それにより個々の職人が変化する状況に対応しながら、①常に同じ形態の土器を創りだすために手指の動かし方の順(動作連鎖)を絶えず確立しなおし、②技法の変異を積極的に評価して注文をくりかえす使用者との関係性を契機にして、職人が技術的な革新を実践していることをあきらかにした。その実践を創造的実践知の営みと名付け「技術文化複合(人がモノをつくり、つかう際の自然環境や社会的な環境との関わりと、それに関わる信念や価値観まで含めた複合体)」の概念化を試みてきた。

他方、調査地周辺では近年、土器が日用品以外の特質を兼ね備え、土器をめぐるあらたなエージェントがあらわれはじめていた。たとえば、これまでにない小型の土産物土器が、近隣の博物館からの注文によって製作され、観光客向けのあらたな市場を広げていた。パンを焼く土器が普及していなかった低地の遊牧民に対して、地方行政官が講師として女性職人を雇って技術指導をおこなわせ、あらたな生産活動が生み出されようとしていた。

2. 研究の目的

この研究は、急速な市場経済化や観光地化に晒されている現代アフリカ社会で多層的な状況を生きる人びとの実践を扱う。なかでも、エチオピア西南部に暮らす女性職人が「土器をつくり」地域の人びとが「土器をつかう」行為を、優れて創造的な営みととらえ、人びとが自らの身体を介して土器と相互に作用しあう過程で生じる人とモノの多層的な関係の様態(=マテリアリティ)が変化する機序を明らかにする。具体的には、15年前に実施した女性土器職人の技術文化に関する研究成果と比較しながら、創造的実践知の生成物として現れはじめた土器の3つの特質(1.観光化, 2.工業化, 3.非宗教化)をめぐるマテリアリティの変成を検討する。

3. 研究の方法

1) 「観光化」する土器をめぐるマテリアリティの変成

15年前にはアリの職人は、試行錯誤して素材と関わりながら独自の製作手順を確立していた。一方利用者は「手の善し悪し」という表現をつかい、職人ごとに製作手順が異なることと土器の耐久性の差異を関連づけて評価していた。近年、博物館からの注文を契機

に職人のなかに実用を度外視した観光客向けの土産物土器を製作するものがあらわれ、観光客は土器の製作者に留意することなく特定の民族の工芸品として土器を購入する。人とモノの相互作用に留意してこのような変化をとらえなおすことにより、「観光化」によるあらたな市場の生成とそれにとまなう土器の製作や土器への評価に関する変成をあきらかにする。

2) 「工業化」する土器をめぐるマテリアリティの変成

15年前にはアリの土器づくりに関わる知や技法は女性職人の身体技法とむすびつき、秘匿されたり規格化されたりすることはなく、職人の娘は幼いときから作業場で遊ぶ過程で土器づくりを自習していた。近年、エチオピア西南部の地方行政官が、エチオピア独特の発酵パンを焼く土器が低地に流通していないことに注目しアリの土器職人2人を講師としてその技法を低地の遊牧民に伝える試みがはじまった。人とモノの相互作用に留意してこのような変化をとらえなおすことにより、知や技法のあらたな伝承過程の記述と在来技法が工業化する端緒を検討する。

3) 「非宗教化」する土器をめぐるマテリアリティの変成

これまでの研究では、職人は土器を製作して生活を営むことを前提にして土器づくりに従事しており、すべての種類の土器を成形できることが一人前の証であり、土器を製作しないという場合は、「手が悪くて」壊れてしまうために製作できないことを意味していた。プロテスタントの浸透にとまなない、職人のなかに、占いなどの在来の宗教実践を禁じた教義を守るために、占いに関わる土器を製作しないものがある。職人たちの土器製作が生業実践と宗教実践のあいだでゆれ動く過程を描く。

4. 研究成果

1) 「観光化」とマテリアリティの変成(雑誌論文2, 学会発表7, 8, 11, 14)

あらたなフィールドとして、調査地域近隣の町に設立されている博物館と、村に設立されたコミュニティ植物園を調査拠点とし、そこに出入りする人々を対象に調査研究をすすめたところ、次のことがあきらかになった。

博物館で販売されている土産物としての土器は、そのほとんどが地元の人々が利用する土器の形態の縮小版(ミニチュア)であった。職人たちは、地域内で利用・流通されている形とは異なる形態の土器を創りだすことはなかった。また、土産物用の土器を製作する職人は2人おり、博物館がある町の近隣の村に暮らしていた。彼女たちは、博物館から注文を

うけて生産していた。彼女たちは、観光客数に応じて博物館からの注文をうけており、土産物の販売によって定期的に収入を得ているわけではなかった。現時点では、土産物の土器生産の需要は、定期市で販売される土器種の需要と比較して相対的に低く、また注文頻度の不安定さとも関連して、ごく少数の職人によって副業的にこなわれているにとどまっていた。

2) 「工業化」とマテリアリティの変成 (雑誌論文 4 学会発表 3, 6, 11, 15 図書 1, 2, 3)

土器職人が低地の遊牧民へ土器づくりの技法を教授する試みは、行政の主導で実施された。具体的には、2人の職人が低地を訪問した。低地の遊牧民と職人たちは、生活する自然環境だけではなく、異なる言語をつかっている。遊牧民に土器づくりの技法を教授した職人によれば、言語表現をつかった説明よりも、身振りで作業方法や内容を示すことが多かった。その過程で、身振りや技術を標準化させて教授するようなことはなく、この試みは低調に終わった。

前述した経緯をふまえ、土器以外の在来資源に着目し、植物繊維をつかった手漉き紙の製作過程における、技術の共有と配分について検討した。この活動は、村に設立されているコミュニティ植物園において、村の学生を対象にして実施された。研究代表者は、手漉き紙製作のための技術を導入する過程に関わっていた。導入後は、ワークショップに参加した学生が中心になって製作活動をおこなっていたため、直接観察や聞き取り調査を介して、彼らの技術や知識の共有と配分について「標準化」や「規格化」という観点から調査を実施した。

手漉き紙を製作していたメンバーは、およそ40人おり、彼らは3つのグループにわかれて作業に従事した。彼らの年齢は、10歳から20歳くらいであった。ひとつのグループに12人ほどのメンバーが所属していた。グループのメンバーからリーダーが選出されていた。そのほとんどが調整型のリーダーで、彼ら・彼女たちは、年少のメンバーに対して積極的に教示するよりも、ともに作業をおこなうことで、技法を共有していた。このような教授の仕方は(積極的に教示しない)、土器製作の場面で頻繁に観察しており、アリの人びとの教示に関する振る舞い方として共通性が高い特徴のひとつとして推察できた。

また、植物繊維を土産物へと製作していく過程において、均質な品質の手漉き用紙を製作するために、リーダーが製作過程にあるそれぞれの段階の素材の状態を確認しながら作業をすすめていた。グループ内で、リーダーをはじめとした数人が、製作過程のいくつか

の場面において品質管理にかかわり、それによって均質なものがつくりだされていた。

3) 「非宗教化」とマテリアリティの変成

研究代表者が、この地域で調査を開始した15年ほど前は、職人の約8割が在来の宗教からプロテスタントへ改宗していた一方、農民は、村によっては、プロテスタントへの改宗割合が50%にも満たないところがあった。当時は、プロテスタントへ改宗した職人であっても、常連の客から占め(在来の宗教実践のひとつ)に関わる土器の製作依頼をうけると、自身がプロテスタントであっても、受注して生産していた。現在、職人の9割以上は在来の宗教からプロテスタントへ改宗しており、農民についてもその多くがプロテスタントへ改宗していた。15年前と比較すると、在来の宗教実践に関わる土器の需要は著しく減少していた。在来の宗教が担っていた実践のいくつか類似するものは、プロテスタント教会の活動に部分的に見いだすことができる。しかし、人工物を活用した宗教的实践についてはほとんどおこなわれていない。

4) まとめ

15年前の調査結果と比較して、観光化によって土器づくりに関するあらたな市場は形成されたが、それはかぎられた職人が不定期に参入できるような活動にとどまっている。彼女たちの主たる生業活動は地域内を流通する土器の生産であり、その評価の仕方(個人の技術的な差異を肯定的に評価して個別の関係性を築き発注する)は、15年前と比べて大きく変化していなかった。

異なる民族へ土器づくりの技術を教授する試みは、現時点では低調な状況にある。他方、アリの人々のあいだでは、新しい技術や知識の受容、共有、そして配分の実践を観察することができた。対象とするモノが、土器ではなく別の素材(植物繊維など)であっても、その知識や技術は、そこに関与するメンバーが共有に教授できるように標準化される方向へはむかわず、一部の人が製品の中核となる作業や見極めの役割を担い、それ以外の人は周辺的な作業にとりくむという状況であった。

15年前と比較して、プロテスタントの宗教実践は、アリの人々の日常生活(たとえば、結婚、共同労働、相互扶助、葬儀など)において深く浸透している。いくつかの在来宗教の実践の一部がプロテスタントの活動に反映されているようにとらえられるものもあるが、在来宗教における儀礼用の土器の製作や利用のように、人工物を利用した占いのような宗教実践は、ほとんど観察できない。今後とも人工物に反映されるような宗教実践に

ついて注目していく必要がある。

5) 学術交流 (雑誌論文 1, 3 学会発表 1-15)

この研究課題に取り組んだことにより、エチオピアにとどまらず、人類学、エチオピア地域研究、考古学、民族生物学などさまざまな学術組織が主催する研究集会に参加発表すると同時に、そこで発表する研究者と、人とモノのマテリアリティについて意見交換をおこなうことができた。

なかでも、エチオピア国際学会では、エチオピア国内の歴史的な経緯をふまえて地域ごとの人とモノのマテリアリティの変成について情報交換をおこなうことができた。また、東京外国語大学がマレーシア大学において企画した国際集会での発表では、東南アジアの状況と比較しながらエチオピアの人・モノ関係について検討することができた。

これらに加えて、世界人類学民族学連合中間会議では、知識や技術の継承という課題について、エチオピアにおける在来技法の生成と近代学校教育との関わりに関して発表し、近代学校教育をふまえたうえでの知識の継承について学術的な交流をおこなうことができた。さらには、世界考古学会議において、身体化された知識と物質文化の創造と継承との関連性について学術的な交流をおこなった。これに加えて、京都大学アフリカ地域研究資料センター・公開講座において「アフリカの女性職人から学ぶ」というタイトルで研究成果の一部を社会に還元する活動にもたずさわった。

さらに、在来の資源の有効利用という観点から、アフリカの事例と日本の農山村の取り組みを比較検討する展示の企画・準備に従事することおこない、アフリカでの取り組みをさらに相対化することができた。

最終年度の後半 (2018 年 1-3 月) には、これまでの研究課題の成果が評価され、ライデン大学アフリカ研究センターに研究員として訪問し、人 (職人) と土器の関係、人 (学生やその親族) と使い終えた授業ノートの関係などを手がかりにして、人とモノの関係性やマテリアリティの変成について考察をすすめてきたことを発表した。この発表をおこなったセミナーでは、マテリアリティの変成やその変成に関わる人びとの知の実践に関わる知見について議論をおこなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

1. Morie Kaneko, Absence de restes dans

une société non occidentale, Les Ari du Sud-Ouest de L'Ethiopie, eds. Frederic Joulain, Yann-Philippe Tastevin et Jamie Furniss, *Techniques & Culture* Numero 65-66, 査読有, 2016, 134-137.

2. 金子守恵, 「民族生物学会第 14 回国際学術会議報告 (於ブータン)」文化人類学 79-4, 査読有, 2015, 433-438.

3. Morie Kaneko, Collections and Archives on Ethiopian Studies at the Frobenius Institute. *Nilo-Ethiopian Studies* No. 20, 査読有, 2015, 33-40.

4. Morie Kaneko, "I Know How to Make Pots by Myself": Special Reference to Local Knowledge Transmission in Southwestern Ethiopia. Masayoshi SHIGETA, Mamo HEBBO, & Makoto NISHI (eds.) *African Study Monographs Supplementary Issue* No. 48, 査読有, 2014, 59-75.

[学会発表] (計 15 件)

1. Morie Kaneko, Pottery making as local knowledge in southwestern Ethiopia with special reference to finger movement patterns, The 7th HK (Humanities Korea) International Conference, 12th-13th October 2017, Hankuk University of Foreign Studies, #205 Research Building, Global Leadership Academy. (口頭・査読有)

2. Morie Kaneko, Pottery Making Style and Chaîne opératoire in Southwestern Ethiopia with Special Reference to Finger Movement Patterns (T09Dsession: Debating Ethnoarchaeology), the Eighth World Archaeological Congress Kyoto 2016, 28th August -2nd September 2016, Doshisha University, Kyoto, Japan. (口頭・査読有)

3. Morie Kaneko, What They Learned and How They Know: Formation of local knowledge (ZAIRAICHI) on livelihoods among the young farmers in Ethiopia, The International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, Inter-Congress 2016, 4th-9th May, The Hotel Dubrovnik Palace, Dubrovnik, Croatia. (口頭・査読有)

4. Morie Kaneko, Local knowledge regarding the production of ensete (*Ensete ventricosum*, Musaceae) in Ethiopia: With special reference to 30 years of change, UMS-TUFS Exchange Lecture on Culture and Society of Asia and Africa, 21 March 2016, Meeting Room, Faculty of Humanities, Arts and Heritage, University Malaysia Sabah, Kota Kinabalu.

5. Morie Kaneko and Masayoshi Shigeta, Formation and Sharing of Local Knowledge on the Production and Consumption of Fermented Ensete (*Ensete ventricosum*, Musaceae) Starch among the Aari People of

Southwestern Ethiopia. 19th International Conference of Ethiopian Studies, 24th-28th August 2015, University of Warsaw, Poland. (口頭・査読有)

6. Morie Kaneko and Masayoshi SHIGETA, Local Knowledge as a Mode of Coexistence: The Acceptance of Modern School Education, [5th Africa Forum: Addis Ababa] Local Knowledge as African Potential, 30th October - 1st November 2015, Siyonat Hotel, Addis Ababa.

7. Morie Kaneko, Reflecting Local Knowledge (ZAIRAICHI) to Global Context: With Special Reference to Local Knowledge on Ensete and its Exhibition in Community-based Museum, International Workshop in Kyoto University: Construction of a Global Platform for the Study of Sustainable Humanosphere, 7th February 2015, Kyoto University.

8. Morie Kaneko and Hiroko Takano, The possibilities of Special Exhibition for Local Knowledge (ZAIRAICHI) on Ensete (*Ensete ventricosum*) in South Omo Research Center and Museum, International Workshop in Kyoto University: Construction of a Global Platform for the Study of Sustainable humanosphere, 7th February 2015, Kyoto University [Poster presentation]

9. 金子守恵・重田眞義「エチオピア西南部オモ系農耕民アリによるエンセーテ (*Ensete ventricosum*) 品種の認知・栽培・利用をめぐる在来知」第 25 回日本熱帯生態学会年次大会、於京都大学、2015 年 6 月 19-21 日。(口頭・査読有)。

10. Morie Kaneko and Masayoshi Shigeta, Knowledge on Ensete Cultivation, Processing, and Ensete Fiber Production in Ethiopia, 14th International Conference of Ethno Biology, 1st-7th June 2014, UWICE, Bhutan. (ポスター・査読有)

11. 金子守恵・高野紘子「エチオピアにおけるエンセーテ (*Ensete ventricosum*) 繊維製品をめぐる在来知の実践：アフリカ在来知と新たなコミュニティー (4)」日本アフリカ学会第 51 回学術大会、於京都大学 2014 年 5 月 23-25 日。(口頭・査読有)

12. Morie Kaneko, Local Markets in the Ethiopian Highlands as Social Landscapes, The International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, Inter-Congress 2014, 15th-18th May 2014, International Conference Hall of Makuhari Messe, Chiba city. (口頭・査読有)

13. Morie Kaneko, Non-waste in a Non-Western Society. International Workshop de Culture and Techniques on « REPARER LE MONDE: Excès, Reste et Innovation » Entrée Libre sur inscription

dans la Mesure des Places Disponibles, 20th & 21th November 2014, MuCEM, Marseille, France. (口頭・査読有)

14. Morie Kaneko and Hiroko Takano, Knowledge on Ensete Fiber Production in Southern Ethiopia, Local Knowledge Meeting: Local Knowledge in the Highlands and around Lakeside, 19th October 2014, LAKE BIWA Museum, Japan. [Poster presentation]

15. Morie Kaneko, Variations in Shape, Local Classification, and Establishment of a *Chaîne opératoire* for Pot-making among Woman Potters in Southwestern Ethiopia, International Workshop in KOBE, 29th-30th March 2014, Kobe Gakuin University, Japan.

[図書] (計 4 件)

1. Morie Kaneko, 5. Learning Pottery Making: Transmission of Body Techniques, *An Anthropology of Things*. Eds. I. Tokoro and K. Kawai, Kyoto University Press and Trans Pacific Press: Kyoto, Australia, 2018, 115-135.

2. Masayoshi Shigeta and Morie Kaneko, Chapter 11 ZAIRAICHI (Local Knowledge) as the Manners of Co-existence: Encounters between the Aari Farmers in Southwestern Ethiopia and the 'Other' eds. GEBRE Yntiso *et al.*, *African Virtues in the Pursuit of Conviviality: Exploring Local Solutions in Light of Global Prescriptions*, Bamenda: Langaa RPCIG, 2017, pp. 311-338. (466p.)

3. Morie Kaneko, Variations in Shape, Local Classification, and the Establishment of a *Chaîne Opératoire* for Pot Making among Female Potters in Southwestern Ethiopia, H. Terashima & B. Hewlett (eds.), *SOCIAL LEARNING AND INNOVATION IN CONTEMPORARY HUNTER-GATHERERS: EVOLUTIONARY AND ETHNOGRAPHIC PERSPECTIVES*. Springer, 2016, pp. 217-227. (318p)

4. 金子守恵・重田眞義, 「第 8 章 共存の作法としての在来知-エチオピア西南部に暮らす農耕民アリと「他者」との出会い-」松田素二・平野 (野元) 美佐編『紛争をおさめる文化: 不完全性とブリコラージュの実践 (アフリカ潜在力)』京都大学出版会, 2016, 277-310 頁.

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/member/kaneko.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金子守恵 (KANEKO, Morie)

京都大学・大学院アジア・アフリカ地域

研究研究科・准教授

研究者番号：10402752